

建交労大阪府本部
機関紙

 発行元 府本部
 電話 06-4800-7115

大阪地方裁判所堺支部前・偽装請負宣伝行動

建交労関西合同支部・大陽液送分会大田貨物班(以下「大田貨物班」という)は、6月2日(木)午前・午後の2回、大阪地方裁判所堺支部(以下「堺支部」という)前で偽装請負裁判を公正・公平な判断で勝利判決を出すよう訴えました。

午前は、関西合同支部4名、関西支部1名、大阪合同支部1名、テース支部1名、大阪府本部役員3名が参加しました。早朝8時から行った宣伝は、鷹巣副委員長、原告の大田貨物班・長谷川班長、大阪府本部・荻

田書記長の順番で訴えました。長谷川班長は「私達は、大田貨物運送という会社と雇用契約を締結しています。そして、大陽液送と業務委託名目の契約を締結し、タンクローリーによる液化ガス運送の仕事を始めました。ところが、大陽液送の制服・ヘルメットをかぶり、配車指示は、



大田貨物の配車係からではなく、大陽液送配車係から指示を受けている。決定権限も大陽液送が持っている。くわえて、大田貨物のトラック運転手は、液化ガス輸送に必要なノウハウ、車両、物品は何も持っていない。にもかかわらず、大陽液送から業務委託を受け働いている。実態からすれば、



労働者派遣契約であることが明らかです。労働者派遣法は、請負形式をとりながら、実態は労働者派遣で就労させている事業所(派遣先事業者、請負の発注者等)が指揮命令を継続している場合は、派遣先事業所が当該労働者に対して派遣元の労働条件と同じ内容で雇用の申込み

をしたものとみなす。との規定を制定している。(労働者派遣法40条の6)私達は、この規定に基づいて大陽液送と私達との間に直接の雇用契約があることを確認し、そのうえで、同じ仕事をしている大陽液送従業員との均等・均衡待遇を要求しています。」と訴えました。午前は、裁判所職員の出勤時間であったので、偽装請負を記載したビラを約200枚配布しました。

午後からの宣伝行動には、関西合同支部4名、テース支部2名、大阪府本部役員3名、その他2名が参加。堺支部裁判所前での訴えは、鷹巣副委員長、大陽液送分会・米田組合員、荻田書記長と原告…大田貨物班・長谷川班長。お昼休みの時間でしたが、人通りも少なく、ビラ配布は20枚程度でした。

建交労フェスタ京都で開催

2022年建交労フェスタは、6月10日～12日(金～日)3日間、京都で開催されました。コロナウイルス感染者が急増した昨年から延期となり、4年ぶりに開催し、北は北海道、南は沖縄まで全国の建交労の仲間が参加しました。248名がフェスタに参加しました。建交労大阪からは、関西支部18名、関西合同支部14名、関西ダンプ支部2名、此花支部1名、大阪合同支部1名、合計36名が参加しました。

初日は、午後13時30分～京都産業会館ホールで開催式を行なわれ、司会進行は、女性部・渋谷ひろみさんと青年部・武田喜成さんで始まり、スタンダップコメディショー「松元ヒロスペシャルステージ」と題して、「ベトナム戦争」で体験された元アメリカ



カ兵の話をもとに、憲法改正の危険と戦争の悲惨さを交えた話しを約1時間、ユーモアを交えながら語ってくれました。

2日目は、青年セミナー(陶芸体験など)、女性部企画Aコース(座禅など)、Bコース①(七宝焼き見学など)、Bコース②(つまみ細工見学など)、Cコース(京友禅染見学など)現地観光Aコース(伏見・宇治観光)、現地観光Bコース(東福寺・伏見稲荷・京都御苑観光)にそれぞれ分かれて京都

の魅力あふれる体験と観光を楽しみました。

3日目の全体集会では、2日間を通して体験・観光した様子をムービーで上映。その後は、組織代表シンポジウムを行い、各業種の代表者(トラック・学童・ダンプ・労職)から感想・決意などが語られました。

3日間を通して開催された2022年建交労フェスタは、全国から集まった仲間と交流し、組織強化と団結が強まった交流となりました。

